

令和7年度 学校安全総合支援事業

西尾中学校 1年生

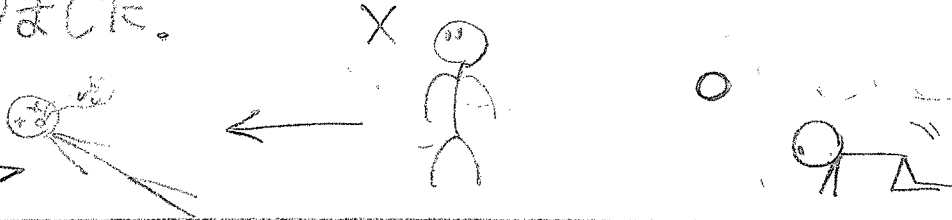
防災学習のまとめ



もくもく体験

実際の火事では、けむりが出ていて吸うと有毒なので、姿勢をできるだけ低くしてすばやく移動することが、必要だと知りました。

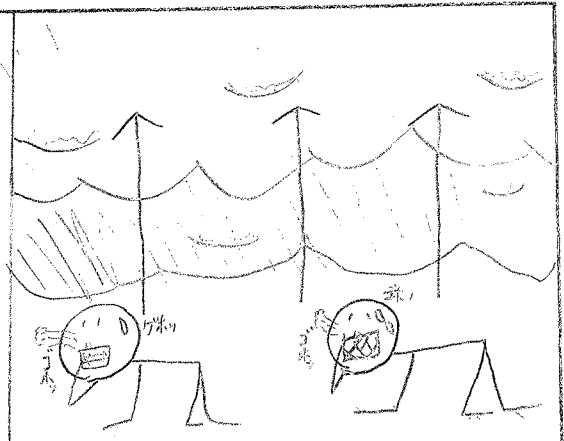
少しでも
吸うと危険



もくもく体験では、火事が起きた時が再現されていました。火事とともにけむりがすごく危険だと知りました。けむりの中では、思ったよりも視界が悪くて、ハンカチなどで口をおさええても、姿勢が高いとけむりを吸ってしまったので、本当に火事が起きたときは口をおさええて姿勢も低くし、けむりを吸わないようにしたいです。

火事が起きた時、どのような行動をすればいいのかを学びました。気を付けないといけないことは、煙を絶対に吸うはいけないこと、姿勢を低くしないといけないこと、騒いだりはせず、冷静に避難しないといけないことなどです。これを守れば助かる確率が上がると思うので、もし火事が起きても、これを守って、自分の命を守りたいです。

もくもく体験
もくもくをやり煙がじゅうまんしている時は
なるべく姿勢を低くすると良いことが分かった。
家で火事ももしはいいからみかいま
なにか姿勢を低くして自分の命を守
りたいです。

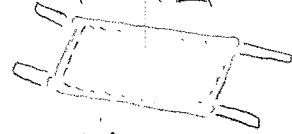


簡易担架搬送法

担架で一度運んでもらったときに、高い位置だと思ったよりも怖かった。低い位置(30cmくらい)で運んでもらったときは、あまり怖くなかった。空中に浮いた状態で地面と水平の体勢になることはとても怖いので、運ぶときはなるべく低い位置で運んであげたいです。

私が一番、印象に残っている講座は防災講座です。

防災講座を体験してみて、身近にあるものでも、色々な物に代用することができるのかが分かりました。簡易担架搬送法では、長い棒と布団さえあればできることに驚きました。だけど、簡易担架をつくるだけでなく、声かけや安心させる言葉も大事なんだなと思いました。また、三角布包帯法のやり方など、



自分が助けてもらう立場ではなく、自分が助けてあげる立場なんだとあらためて

思いました。

簡易担架搬送法

身の回りにあるもの(毛布、物干し竿など)で担架が作れること。足を前にすることや、こわくないように、斜面では同じ高さにするなど、運ぶ方の注意することもあった。災害時には、臨機応変に動き、身の回りのものを活用することが必要。

簡易担架搬送法を学んでみんなに簡易なのに、しっかり役立つ簡易担架が作れて、災害時のときにとっても役立つなと思いました。

そして、中学生の私たちにでも、まんきゅうの時にすぐに、担架をつくることもできるのが、特にいんしょうに残りました。

防災講座で、消化器の使い方や簡易担架搬送法などの使い方を学びました。
特に簡易担架は、家にあるもので作れるすぐに対応できるから便利だ+αと
思いました。(ほとんど)家にあるようなもので「作れる」から「たまたま」処置としてとてもいい
なと思いました。あと、シートを立てり担架を作るより作るのに、人数が必要で、担架
を作る時に敷いてくれるひしひし「みんな協力して行うことが大切だよ」と言っていた
ので、大抵地震はどっど起きる前に、地域の人とコミュニケーションをとって、おたがひという
ときに動けるような対策を立てておこうと思いました。

防災講座(簡易担架搬送法)で材料がそろっている時にど
うやって運ぶか、運んでいる最中々に意識声かけするかな
どがわかりました。実際に災害などが起き、運ぶ、搬送
する、という時には絶対役立つと思うので、覚えておくの
と、情報共有した方が、...と思うので、親などにも共有し
ておきたいです。

簡易担架搬送法で、おが、初めから用意している担架だけでは足りないという災害の恐れを知りました。
そして、実際にやってみるととてもわかりやすかった私達の中で運ぶけれど、二人が大きな人だとしたらみんな
協力しないといけないと思いました。
二の二をやらなければ「すの話ではないけど」、みんな協力して行動するとか「緊急時にはどうしても下叩は
事だに学びました。
だからみんな協力して団結するには日常のちいさな方とのコミュニケーションも重要になってくると思いました。

簡易担架搬送方法

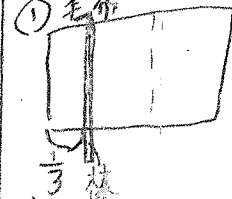
① コシ・安全

運ぶときは水平に、足の方から運ぶ！

②で棒と布を少し間をあけるのがポイント！

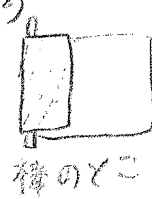
② 作り方(担架)

① 毛布



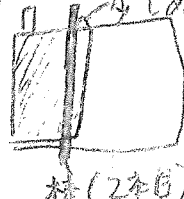
棒

②



棒のどこのところに棒を置く。である。

③



棒(2本目)を折り返した布の上におく。



④

⑤ 完成

完成

三角巾 包帯法

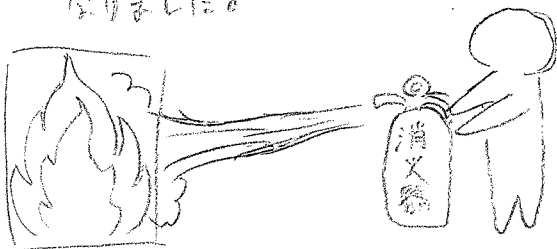
最近にある教科書などで応急処置が
できると知っておどろきました。



自然災害がもし起こったら、人々は足をけがしてしまったり、どこからかの
体の部位から血が出て止めることは難しいと思うので、この三角巾包帯法
を使って自分が人々の命の助けになり、手当をすることができるということ
を学びました。そして、もし医りょうなものかなかったら、三角巾包帯法に使う
簡易なものでも手当をすることができるということも学びました。

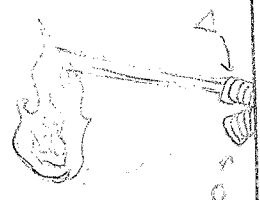
けがをしたり、骨折をしたら、傷口をおさえること、骨が折れた部分を
固定して、動かさないことが大切。防災バッグなどには、三角巾を入れて
おくといい。

消火器の使い方を忘れて、
いざというときにも使えるように
なりました。



水消火器

1つ目は③の水消火器です。この講座で、ただ単純に、火に水を
かけるだけではあまり良くない、ということを知りました。
まずは地面にホースをゆらしながら水をかけて、下の方を
中心的に消火するようにしていく、というのを覚えておき、
火事の際は、いかり対応はしないです。



消火器を使う時は、火の根本から消火することか、大さな
と学びました。また、ジグザグに水(消火水)を出
すことで安全に火を消すことか、できることをよく
学びました。



根本から消す



テント作り

防災7講座で学んだこと... 自分のためになることは相手のためになるということも学んだ。

たいけんしたことをもし本当に地震などが起きたらいかせるようにしたいと思う。

せんぶだいじなことが、いかした。と見た



家がくずれ

てふ、地が揺れる



つなげよう、テント



もしいえがたおれをほうでもひな
んじへい、テントのたてかかわらた
う自分のためにもなり、相手のためにもなる。

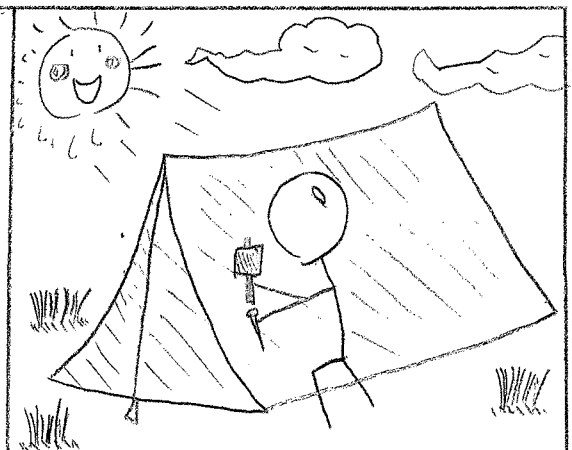
テント作りでは、実際にテントをつくってみました。

(わからなければ
手伝える！)

テントを作るのは教えもらったとおりにやれば"でき
たけれど、しもうとまに手ぬいにたたまないと上手く片づけ
られなくて難しかったです。災害が起きたときにテントを作
れるように手順も忘れず覚えておきたいです。

テント作り

テント作りではどんな大変な状況でも
冷せいに団結して作る事が大切だと
分かりました。
もしテントを作るのがおとなになったら冷せいに
やりとてきかたなしでもだし、安全に作
ていきたいです。



○防災7講座

1番印象に残ったのは、テントづくりです。

自分たちだけで作るのは難しいかもしれないけど、意外と簡単だ。た
ことを覚えていきます。その他のもつて、難しかったけど、いいために、
みんなを助けるために、がんばります。

★テントの組み立て方

- ①袋から出して広げる
- ②黒い輪に棒をさしてクロスさせて
- ③棒を組み立てる
- ④下の棒を上にも引っかける



新聞紙で コップ&スリッパ作り

新聞紙で便利なものを作ろう！ ⑤ 作り方 (バック)

① コップ、箸しお、効果
しっかりと折りずじを付けて
折る。
新聞を2、3枚重ねると
丈夫になる。
小さい子どもと一緒に
作る。

① 新聞紙を2、3枚重ねる
② 折りずじを付ける
③ 折りずじを付ける
④ 折りずじを付ける
⑤ 折りずじを付ける
⑥ 折りずじを付ける
⑦ 折りずじを付ける
⑧ 折りずじを付ける
⑨ 折りずじを付ける
⑩ 折りずじを付ける
⑪ 折りずじを付ける
⑫ 折りずじを付ける
⑬ 折りずじを付ける
⑭ 完成品

⑤ コップ・スリッパ作り

いま、コップやスリッパなどが無い時でも、何かを作。て
作。下。もの。では活。する。こ。も。で。きる。と。いう。考。え。方。を。み。に。つ。け
ま。した。私。は。折。り。紙。な。ど。が。得。意。な。の。で。い。ろ。ん。な。困。っ。て。る。人。に
配。っ。て。地。域。の。人。を。安。心。さ。せ。て。た。り。や。れ。た。い。で。す。



防災講話を受けて

齊藤先生による防災講座で、災害のことの説明、
そして、あらためて災害の破壊力や恐ろしさ、そして
その恐ろしい災害から自分や家族を守るための
工夫の準備をすることか大事だということも
学びました。

地しんには種類があり、活断層による「直下型地しん」と
海の中で起こる「海溝型地しん」があることが分かりました。
南海トラフ地しんは海溝型地しんで、最悪の場合は全
われで、ゆれから5〜6分続くといわれていて、おさまったあとでも何
度もゆれると想定されていると聞きました。この話で、地しんに
ついてはもともと知っているつもりだったけど、より詳しく知ることが
できました。

私の防災講話で学んだことは、自助・共助・公助を
学びました。自助は自分の命は自分で守ることという
事です。自分の命を守るためには「SHAKE OUT」や「家具の固定」など
大切なことがたくさんあることも学びました。
そして日常から学んだことをいきて、生活していくことが
大切だと思いました。

私はみんなの笑顔と命のために私達になにかができるか、ということも
学びました。

・1.じしんについて
マグニチュード→世界共通
しんど→日本のみ

・2.安全の合言葉
「うたお」
「う」→うごかない
「た」→たふさない
「お」→おちさない

・3.シェイクアウト
机などのかくれる物がある
↓
おたまをしっかりと物で守る

たいてき
↓
手でしっかりと守る

体のほの部分がより
おたまが大切

まとめ
私は命のことについて、
かく学ぶことができて
よかったです。
みんなの笑顔と命の
ために自分達になにか
できるか学んだことを
いきて、しっかりと
みんなに伝えていく。

講話

→重い

・シェイクアウト

→正座のようにひざをつくと安定。

ガラスの破片などが床に落ちている場合は、
ひざをつけると危ないので、ひざはつけない

・非常持ち出し品 →できればリュックではなくバストに。

→楽にひかんできる。

・雨 高雨で視界が悪い中車で走っていると、
冠水している道路に入ってしまう、重くなることも、
→水圧でドアが開かなくなるので、できるだけ早く
車外へ、「wind用ハンマー」を置いておく。

→窓ガラスを切る

近藤 ちろ子先生の講話で私は、地震によっておこる被害について学ぶことが
できました。西尾市学校区に津波がくるとは知られていなかったが倒壊や
液状化がおこることを知りました。防ぐことができない被害もあるけど、家具の落下や
ガラスがわれたりするのは防げることにしても詳しく知りました。この講話では中学生
生だからできること、についても学ぶことができました。実際に被害にあった人たちが
中学生に元気をもらったということを知って私も力になりたいと思いました。

西尾市では、30年以内に80%の確率で地震がくるとを
いりました。

地震がいつまでもいいように、防災バッグなどを準備して
おくことが大切だと思いました。ほかにも、家族で
ひなん場所を確認しておくといいと分かった。

家具ものの対策として、固定しておくこと、安心して、くらすと学んだ。

防災で大切なことは「命を守る」と「みんなといっしょに生
きていく」などを聞いたとき確かに思っていました。でも、
その後も大切なことと知りました。

家の中の「安全」合言葉「うごいてこない」、「たおれて
こない」、「おちてこない」この三つを学びました。

最初、大きな地震は中休みから6分続くときいて、あんまり
長く感じられなかったけど、「ぞうさん」(約15秒)から
24回程続くときいて、とても怖かったです。

地震が来たら、しゃべらず頭を守ることはあたり前ですが、
ヒンヤリになって間に合わないかもしれないので、
訓練からちゃんとやるべきだと改めて思いました。

HUG

避難所 運営ゲーム

避難所運営ゲーム (HUGゲーム)

避難所にはたくさんの人があるし、衛生面や安全の確保、病気の人も、様々な悩みがあるから運営が大変なのが分かったから自ら率先に動けるようにしたい。

避難所運営ゲームをして、運営としている人のたいへんさを実感して、学ぶことができました。

避難所には、いろんな状態の人たちがいて、その度に考えて、避難所でも快適に暮らせるよう工夫してくれる。

運営としている人のたいへんさを知ったからこそ、自分が力になれることは何か考えていきたいと思いました。

避難所運営ゲームをして最初はスムーズに入れていけたけれど途中から、都合が合わなくなってきて、この人をとらうよ〜と考えている間にまた新しい人が来て、本当の避難所はこんな大変なところなのと思いました。最後になるにつれて手をつけられない人やイベントがなくなっていったらもうここは「いいや」と投げやりになってしまったのでもし運営する側になったらよく考えて分けるようにしたいと思います。

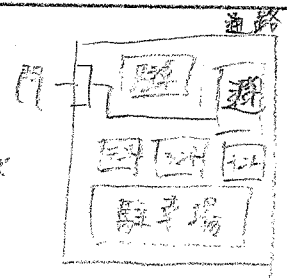
一番印象に残ったのはHUGゲームで「ひなん所のしやさい側」になったとき、思ったより多くの人が「ひなんしてくることを知ったし、そのひなん者のなかでも色々な悩みをかかえている人が、体調が悪い人、高齢者、小さい子ども、たばこが吸いたい人など」色々な条件のなかで「ひなんして来た人達をどうしようもないといけなくて、主さい者側からも多くの事を学んだ。

避難所運営ゲームで、避難所には力を注いだ人やお年寄り、赤ちゃんなど色々な人がいるから、その人たちにあった場所を選んであげないとかわいそうだし、でもそうしていると部屋が足りなくなったり、全員入居しなくなるから、その人に絶対必要なことを優先してあげることが大切だと思いました。

お年寄りがトイレの近くにあることで、すぐに助けて安じたと思うから、そうしたいです。子供は、あえてお年寄りの近くにいることで、おにいちゃんお姉ちゃんが元気をもらって子供も笑顔でもらえるから、一石二鳥でとても良いと思いました。

避難所ゲーム (HUGゲーム) で学んだこと

- ・避難所にはいつたれが来るかわからないこと
- ・避難所は人以外にも、食料を配る場所などがあること
- ・避難所には、とても速いスピードで人がくること
- ・避難所には来たら、ほどこに案内しそめるわけではないこと
- ・避難所、駐車場は車をとめるだけでなく、通路もつくらないといけないこと



避難所運営ゲームで、ゲームの中でも困ったことがおきて避難所を本当に運営している人はすごいと思いましたが、ゲームの中だからその人の情報がたくさん分かるけど、現実だと情報もあまり分からないので、災害が起きたときには自分達には何ができるのか考えて行動することが大切だと思いました。

避難所運営ゲーム (HUGゲーム)

考える暇も無く、沢山の人が入ってくるので、「もっとくるかも」、「疲れているから」、

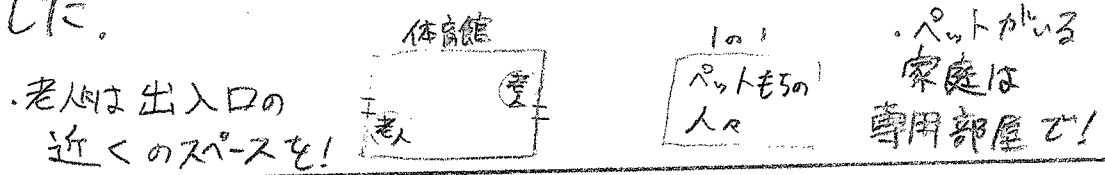
「ペットがいるから」、など、考えたら考えただけ、避難してきた人を待たせてしまうし、

運営する人はこれだけ、これ以上を考えて、かつ早く避難場所を配属させてくれていると

考えるとすごいし、私たちが少しでも協力すればもっと楽になるなら、

迷っていないで行動できるようにになりたいな、と思いました。

避難所には、病気をもつ人や犬、猫を連れてくる人、お婆よりなど様々な人が来て、その人に合ったスペースを設けたりして人々がより快適に過ごすための工夫があると分かりました。



私が印象に残っているのは、避難所運営(HUGゲーム)です。HUGゲームをやってみて、学んだことは、避難所を運営する側はこんなにも大変なんだなということです。避難所を運営するときには、「その人の体調」や「年齢」、「家族人数」などいろいろなお所を見て、行動しないといけないなと思いました。考えるだけでなく、実際に災害がおこったときに、行動できるようにしたいです。

<避難所運営ゲーム>

テレビなどで、地震が起きた時は必ず避難所の映像を見るけれど、その裏で僅か人たちの大変さを矢張りすることができた。位置も細かく考えられていることを知ることができた。

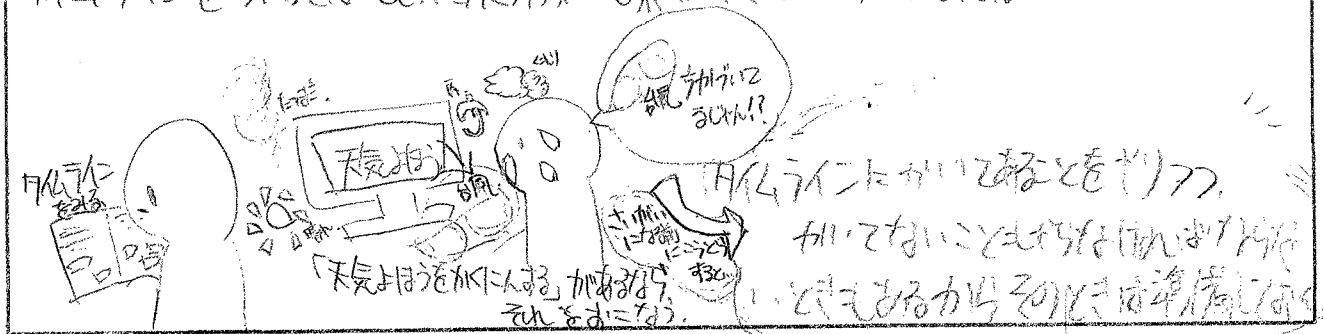
HUGゲームでは、私が思っていたよりも複雑な争い状況。たり状況の避難者が多く、自分の考えが広がる瞬間になりました。私が避難所を学んでいるうちに、いけれど、避難所では実際どんな状況になっているのか知ることができました。支援物資もとりあえず送ればいい、ではなく、避難所が困らない送り方や、物をうまく使うことが大切だと気付くことができました。

風水害 タイムライン

風水害タイムライン

災害時はやることや必要なものが
おから、家族や地域で
役割を分担し、安全を自分たちで
確保できるように前もって準備する
ことの大切さを学んだ。

風水害タイムラインで学んだこと。タイムラインがあれば地震や津波などが来てもどうしようもないことなかった。
タイムラインをつかえばもし本当に津波や地震が来てもいいと思う。



風水害タイムライン

風水害が起きたときに備え、計画を立てることはすごくいいことだなと思いました。もし本当に風水害が起きたとき計画が何もなかったらあわてるとし、作業などをスムーズに行うことができないと思いました。
風水害が起きたときは作ったタイムラインをしっかりと見て行動したいです。

風水害タイムライン

ちょっと前に決めたので、もう大丈夫だと思っていただけ、

家族間ではあいまいになっていたのを、防災は命に関わることなので、しっかり話し合うことで、

家族全員が安全な行動をとれる人だな、と思いました。

風水害タイムラインで学んだこと

- 風水害タイムラインを作っておく、やらないといけないことはすごく沢山あること
- 地域によって、やらないといけないことが違うこと
- 日常から準備をしておかないと、水害が起きたときに大変なこと
- 天気予報や避難所案内をよくチェックした方がいいこと

タイムラインを作るとは、風水害がおきたときに、家族がどのような動きをとればいいのかなど、家族で話し合っ
て決めることができ、実際におきたときに困らなくてすむ準
備ができよかったです。風水害は地震のよつにくるタイミン
グが分からないことはないけど、準備をするのは大切で、風水
害は、雨で洪水になる地域もならない地域もあることが学
べました。

〈風水害タイムライン〉

防災タイムラインを作る中で、津波は自分の
住んでいる家まで来るのかといったことを知る
ことができた。

避難までにすることの役割を分担するとき、以外に
することが多く、今まで気にとめていなかった行動も多く
知ることができた。

〈風水害タイムライン〉

タイムラインをつくると、意外とやることはたくさんあることが分かりました。
家族内で協力して自分のできることを考えて、行重かにうつすことが大切だ
と学びました。やることは、タイミングや災害の危険度によってもちがって、
実際に災害が起きたときは正しい判断ができないと思うから、タイムラインの
大切さを学べて良かったです。

災害が起きたときを想像してシールを貼った。

でも……

災害が起きたときに

冷静になれる

のはどうなるのか？

家族全員で避難の準備ができるように
役割分担！

ここにもうなかりてくると思う。

私は、災害に備えることをあまりしないので、災害について考える機会があって良かったと思います。風水害タイムラインでは、家族で役割りを決めるときに、風水害に備えるためにすることをすることができました。普段、見ないハザードマップを家族と見ることができて、自分の家の周りのことについても知ることができました。

風水害タイムラインでは、家族が災害時にどうやって行動したらいいのか、少し中からなかなければ、よく考えてみたり、災害時と想像してみたらわかった。風水害タイムラインをいまのうちに作っておくことの大切さも分かった。

風水害タイムラインから学んだことは、実際に家族で何をそれぞれ誰がやるのかについて話し合うことで、風水害などの災害が発生したときに、家族それぞれで、すばやく行動できるようにすることができました。

学んだことは風水害タイムラインです。自分たちで風水害が起きた時の計画表を自分たちで作成し、それを調べる前に自分たちの家の周りはどこから風水害が起るかを確認しました。学んだことでの災害が起きたとき自分たちはなにをやるか、いつ避難するかなどを計画して災害が起きたときは素早く行動できるようにしています。

防災リーダーとして

正直、災害が起つてしまつたら、自分のことで精いっぱいだし、

周りの人のことなんて...と思うこともあったけれど、大変なのは自分だけじゃないし、

周りの人の方がもっと大変かもしれない。考えると、皆で協力した方が絶対にいいし、

1人が気を遣えば、皆に影響されて、皆で気を遣って、皆で支え合えるようになると思ったので、

「誰かが助けてくれるのを待つ」じゃなくて、「自分が助ける」という意識を持つたいです。

防災について様々なことを学んで、中学生にできることをすごくたくさんあるんだと強く思いました。学んだことを身内などにも共有し、災害が起きたとき、周りの人の手助けをしっかりとできるようにしたいです。防災への意識を常に持ち続けられるようにしたいです。

自分の命を守るのは当然だけれど、それが難しい人々もいるのでその人が必要とすることは何かを考え、防災の知識を使って助けになりたいです。そして、避難所などの裏方がとれただけたいへんかを知ったので、争っている人やぐちを言っている人たちに呼びかけて「感謝」を忘れさせないようにしていきたいです。
(自分も感謝をする)

防災リーダーとして、これから「頼る」存在ではなく、「頼られる」存在でいたい
です。「頼られる」存在でいるためにも、行動力があるのも、もちろん、高齢者や

小さい子供のみなさん、幅広いところを、探していけるようにしたいです。

「自助」「公助」「共助」を忘れずに、災害が起きたときには、

全員で支え合えるように、頑張りたいです。

私は今まで、防災のことにについて、自分の命を自分で守ることを考えていたけれど、それは最低限のこととして他の人の命を守ることも考え、みんなが助かるように努力したい。そのために、今年教えてもらったことをいざというときのために覚えておいて、少しでも力になれるようにたくさんの方々に協力したいと思う。

もし本当に災害が起こったらすごく怖いし、不安になる人もいると思います。そんなときに、私の得意な折り紙で災害に役立つものをプレゼントして、安心してもらえたらすごく嬉しいです。また、ケガをしてしまった方をより安全に速く救助してその方に対する負担をできるだけ減らせるようにしたいです。(但馬)

私はこの中学7年生のここまでの時間でたくさん防災のことにについて学んできました。その知識をもし大きな災害が起きたときに中学生として行動したいなと思いました。たとえば高齢者や小さなお子さんやお年寄りにはなにか助けることがあるかもしれません。例えばお年寄りや小さなお子さんにはお年寄りや小さなお子さんと同じお年寄りの子が多いと思うので何か役に立てたらいなと思いました。あ、他にも災害の

とまた、これだけではなくて日常でも中学生として行動したいなと思いました。

これまでに学んだことを、実際大きな自然災害が起こったら、自分が率先に動けるようになりたいなと思いました。また、私達中学生一人、一人ができることはとても少ないかもしれないけれど、力を合わせることで、誰か一人の命を救うきっかけとなったり、地域のかとなれるようにしていきたいなと思いました。

みんな生活は一人では上手にいかないことの方が多いと思います。だから、誰も取り残さないように、人々に声かけをしてあげたり、自分ができるとは何か考え、実行し、みんなと共に生き延びていけるようにしていきたいなと思いました。

家族の中で一番防災について知ることができていると思うので、実際に災害が起きたとしても、一臆動くことで学んだことをできるかぎりたくさん生かしたい。

この講座が色々学んだことを、家族に共有したり、困っている人がもしもいたら少しでも助けられるように、色々な知識をもっと身に付けていきたいなと思いました。そして、みんなグッズをちゃんと先に用意しておくのもめっちゃ大事ななと思いました。南海トラフ、火事、台風はいつおこってもおかしくはないと思うので、もしそのうちおこしたら、お世なないように、すぐ準備するいい人になりたいです。

全て実際にあったら、自分は大慌てだろうけど、自分を落ち着かせ行動していきたいです。日頃からの備えも大事にしていき、もしおきても落ち着いて冷静に行動していきたいです。怖いけど周りにはいる人と助け合い、家族にも教える一緒に行動していきたいです。案内役とかになってもこの時やたつことを思い出して行動します。中学生としてできることを懸命にやり体験したいことや講座なども生かしていきたいです。

自分からできることを探して行動していきたいです。私から行動して、周りにも影響を与えたいと思いました。そのために、普段からできることを積極的に取り組んで、利他の意識を高めていきたいです。

自分は災害が起きたときみんなのなかで中央体育館だから中学校生活でフカウとくに危ない場所や避難ルートを確認してみたりとどの道具がはやくはたいて役立ちたい。

今まで、防災について学んだことを、私は特におじいちゃんおばあちゃんに教えてあげて、助けてあげたいなと思っていました。2人はとほりの家なので、いざとなったら私達家族がこの学んだことを生かして助きたいです。そのために、まずは家族内で共有して、こうなったら誰がどうするのかを話し合い、ちゃんと決めておきたいです。怖いけど、私がいかにもしついたら家族が危険だし、費用がはいから、助けるという思いを持って、頑張りたいです。

防災リーダーとして、実際に災害が起きた時、だれがどう動けばいいかなど指示などしたい。そして自分一人ではできないこともあると思うので家族、仲間に情報共有は絶対に、必要だと思いました。そして、どんな困難(災害)があっても、決してあきらめず、だれかのために、だれかを助けるという目標意識ががんばり、だれかに必要とされる人になりたいと思いました。

7講座でいろいろな体験できたから、いざ災害が起きた時に中学生として、やることを思い出しながらうごいていきたい。防災について今までやったからこそ、その知識を生かして、行動したい。私達中学生ががんばって、周りの人たちの気持的な面でも良いえいぶをおたえたい。

今まで防災をやった私は、今まで教えてもらったことをもとにしっかりとおきたときに何をするべきか、たれかを助けるために、テントの作りかだったりしてか人のほつたいのほかたで、たたり、こま、ている人てろを手伝うことを生かし、そして普段では、自ころから手伝って、防災訓練のボラニヤに、そ、せんして、たたりして生かしていきたいです。

いつ何とき、災害がおきても、冷静にたい処でるうにしたい。

↓ そのためには...

- 地域のみなとしっかり交流して、信頼してもらえように。
- 「どうせ、地震はこないから」と慢心を招かない!!
- 口書いてあることを忘れない。家族とも話し合う!!